

■市民対話等の実施状況について

1 市民対話の目的

- 鎌倉市公的不動産利活用推進委員会（以下「推進委員会」という。）と連携を図りながら、鎌倉市公的不動産利活用推進方針の検討にあたり参考となる、市民目線や市民感覚に基づく意見等を、推進委員会に提示する。
- 「中間取りまとめ」までの取組について説明することで、取組に関する周知・理解を進めるとともに、関連するテーマについて外部講師の講演を参考に、鎌倉市のまちづくりについて対話を行う。

2 市民対話の進め方と各回のテーマ

かまくらまちづくり市民対話として、第1回及び第2回を開催しました。内容は、講演等の後に、テーマに沿って、グループごとに対話を行う形で進めました。なお、今後開催する第3回はシンポジウム形式で、内容は講演やパネルディスカッションを行う予定です。

日時	講演等	市民対話
第1回 10月29日 (日曜日)	<small>とうらりまうすけ</small> ・東浦亮典氏 (東急電鉄(株)執行役員都市創造本部戦略事業部長) 「成熟時代の人間本位のまちづくり指針」 <small>ますいれいこ</small> ・増井玲子氏 (東洋大学PPP研究センター リサーチパートナー・ 鎌倉市公的不動産利活用推進委員会副委員長) 「鎌倉市のまちづくり」	グループワーク形式で「鎌倉市のまちづくりについて考えてみよう」をテーマに対話。(アンケート実施)
第2回 11月18日 (土曜日)	<small>かまたやすゆき</small> ・鎌田恭幸氏 (鎌倉投信(株) 代表取締役社長) 「鎌倉という場の魅力：～『いい会社』を ふやす金融の仕組み～」 ・鎌倉市 「持続可能なまちづくり」	グループワーク形式で「鎌倉という場の魅力を皆で考えよう」をテーマに対話。(アンケート実施)
第3回 12月23日 (土曜日・祝日)	<small>おおしまよしひこ</small> ・大島芳彦氏 (建築家、(株)ブルースタジオ 専務取締役) 「市民が主役のまちづくり：リノベーションによるまちづくりの可能性(仮題)」 ・鎌倉市 「全市的なまちづくり」 ・パネルディスカッション	シンポジウム形式で開催。(アンケート実施)

3 市民対話の結果概要

(1) 第1回市民対話

日 時：平成29年10月29日（日） 午後2時から午後4時

会 場：鎌倉市福祉センター 2階 第1・2会議室

参加者：35人



東浦亮典氏の講演



増井玲子氏の講演



対話グループワークの様子



対話結果を発表

● 講演等と対話の結果概要

① 「成熟時代の人間本位のまちづくり指針」

とうらりょうすけ
東浦 亮典氏

(東急電鉄(株) 執行役員都市創造本部戦略事業部長)

【概要】

- ・ 鉄道会社がまちづくりに関わっていること。イギリスのエベネザー・ハワードの理念である「田園都市」を日本でも実践。当時日本における渋沢栄一や五島慶太によるまちづくりや東急電鉄沿線でのまちづくりの経緯を説明。
- ・ 居住、労働、余暇、移動という4機能のあり方について、かつてのまちづくりと人口減少時代におけるまちづくりの方向性が変わってきた。
- ・ 住みたいまちのランキング等からみる鎌倉の人気度を紹介。
- ・ たまプラーザを例にとり、これからのまちづくり「次世代郊外まちづくり」の取組（コミュニティ・リビングの考え方など）の紹介。

- ・連鎖型のまちづくり、没個性化のまちづくり、コミュニティ醸成、交流の場を増やしていく、魅力的な個人経営者を支えていく、ゆっくり散歩しながら良いものを探していく、住民が一つになる奇抜なお祭り、といったことが大切。
- ・魅力がある都市とは、子どもがいて高齢者もいるまち。

②「鎌倉のまちづくり」

ますいれいこ
増井玲子氏

(東洋大学PPP研究センターリサーチパートナー・鎌倉市公的不動産利活用推進委員会副委員長)

【概要】

- ・PPP（公民連携）、公共施設の再編についての取組の紹介。
- ・民間活用、行政の縦割り解消、市民との連携が大切。
- ・図書館サービスの事例の紹介などを通じて、民間活用や従来の概念を取り払った取組が重要。
- ・これまでの鎌倉市の取組を紹介。平成29年3月策定の鎌倉市本庁舎整備方針に続く、「鎌倉市公的不動産利活用推進方針」の検討状況（中間取りまとめの内容）を5つの公的不動産の利活用の基本方針を中心に説明。民間へのサウンディングも実施中。パブリックマインドをもった企業と連携を図ることを検討していることを紹介。

③対話（グループワーク）

- ・1つのテーブルに4～5人に分かれ、合計7つのテーブルで、市民同士で意見交換を実施。
- ・今回は、市民同士の意見交換を行い、特に内容をまとめることはせず、グループワーク後にアンケート用紙に意見を記載する方法で進行。
- ・約30分のグループワーク後、2つのテーブルから意見交換した内容を発表。

【発表1】

- ・鎌倉の魅力を支えているものとして、『プライド』の高さがある。
- ・自然や歴史があり、市民活動が活発ということがプライドにつながっていて、『鎌倉人』としてのプライドを共有化し、理解していくことが大切。
- ・鎌倉らしさを考える時、こうしたプライドがあるのではないかと。古いものを残し、それを若い人に伝えていくことが大切。
- ・そのプライドを良い方向に進めていきたい。

【発表 2】

- ・20代の若い人は、飽きっぽいところがあり、新しいものに次々と移っていく傾向があるように思う。
- ・施設の建物は、行政が作っていくことになると思うが、施設の運営は市民がやっていくのが良いのではないか。
- ・今は良いと思ってやっていることが、次の世代にとって良いものとは限らないので、建物の中身は発展性のあるフレキシビリティの高いことが大切。

(2)第2回市民対話

日 時：平成29年11月18日（土） 午前9時30分から午前11時30分

会 場：鎌倉市役所本庁舎 4階 402会議室

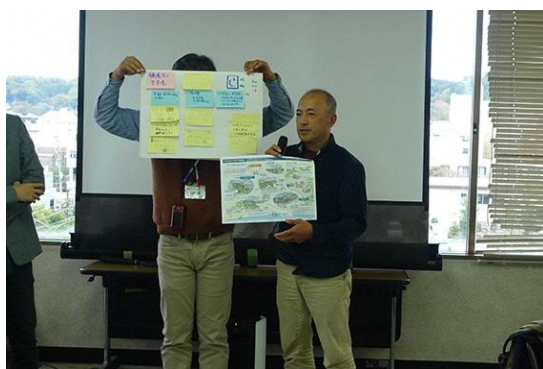
参加者：32人



鎌田泰幸氏の講演



全体の様子



対話結果を発表



対話結果を発表

①「鎌倉という場の魅力：～『いい会社』をふやす金融の仕組み～」

鎌田 泰幸氏（鎌倉投信(株)代表取締役社長）

【概要】

- ・8年前に、鎌倉投信（株）を立ち上げ。本社は、鎌倉市内の空き家を活用。このことが、地域に根差した企業として情報発信された。鎌倉の「場」の持つ力、

ブランド力、環境、価値観等についてあらためて認識。

- ・ 起業の理念、信条「和」「話」「輪」について説明、起業の原点は、「誰のため」、「何のため」などのビジョン等が重要。それが社会における存在価値ともつながる。
- ・ いい会社の評価基準は「人」「共生」「匠」を大切にし、本業を通じて社会に還元すること。
- ・ 投資の効果として、資産の形成、社会の形成、心の形成がある。
- ・ 21世紀は、社会価値創造型の資本主義の時代。

②報告「鎌倉市の考えるまちづくり」

鎌倉市経営企画部経営企画課 担当課長 関沢勝也

【概要】

- ・ 人口減少時代などの背景を踏まえ、現在の検討状況を示した「鎌倉市公的不動産利活用推進方針」の中間取りまとめの内容を説明。
- ・ 主要な公的不動産の利活用の基本方針について、5つの公的不動産の利活用による全市的イメージを説明。
- ・ 今後の流れについて、パブリックコメントの実施などについて説明。また、市職員が自治・町内会等を訊ねて行き、取組の説明を行っていることを説明。

③対話（グループワーク）

- ・ 1つのテーブルに5～6人に分かれ、合計6つのテーブルで、市民同士で意見交換を実施。
- ・ 各グループの対話の内容をファシリテーターが記録し、各チームが意見交換した内容を発表。
- ・ 対話のテーマは、「私たちが考える鎌倉の将来像と公的不動産の活用」と「鎌倉の魅力をより高めるために」の2つについて話し合った。

【Aチームの発表概要】

- ・ 公有地活用の話題がいきなり出てきたという印象がある。市役所本庁舎の移転先をどうするのかという議論が複雑になったのではないかと。
- ・ 鎌倉は内輪山、外輪山という捉え方がある、内側を大切にするとか、内側と外側を住み分けて考えるとかの考えもあるし、全体で考えるとといったことが重要。
- ・ 人口が減少する中で、主要産業が観光とするならば、大学の観光学部を誘致して、若い人の力を活用してはどうか。

- ・箱モノをつくるより、ごみの問題等もっと身近な課題を優先して取り組むべき。

【Bチームの発表概要】

- ・不動産の利活用だけでなく、上下水道や交通等のインフラをきちっとしてもらいたい。
- ・鎌倉の魅力として歩くことを楽しめること、子育て、授乳、トイレを増やしていったらどうか。新たに作るのではなく、今あるコンビニ、民家を活用しても良い。ベンチがあっても良い。フレンドリーなまちにつながると良い。
- ・観光客からお金を集めることも大切。例えばSuica（スイカ）で観光税をさりげなくとるといったのはどうか。
- ・大学誘致なども大切ではないか。

【Cチームの発表概要】

- ・公的不動産の価値創造は、一つ一つが大きいテーマである。もう少し一つ一つ丁寧にやっていったらどうか。テーマを色々な市民に伝えることや情報公開が大切ではないか。
- ・未来像としては、高齢者支援、安全性、子育て、子どもを育てやすいまちということを議論した。
- ・市役所本庁舎の移転をする前に、他の施設の現場をよく見て一つ一つ進める方が大切ではないか。

【Dチームの発表概要】

- ・子どもが健やかに育つまちを理念にした将来像にどう行き着くかを話し合った。
- ・知識の共有、継承できる場が必要。
- ・前を向くということで、将来像を語り合えば、鎌倉市はうまくいくという流れで考えたい。
- ・リサイクル率が高いにも関わらず、ごみの問題もある。もっと意識を高めて行きたい。
- ・市の実行力がもっとあればよい。

【Eチームの発表概要】

- ・「わくわくするような未来を」をテーマに、若い人も高齢者もみんなで参加できるまちにしたい。
- ・ミニショッピングモールを作ってはどうか。地域ごとに空き家などを拠点として、その地域の人が買い物に困ったらそこに集まるなどしたらどうか。インターネットが使えない方もここで解決する。

- ・働くまち鎌倉を目指してはどうか。テレワークも鎌倉でできるのではないかな。仕事を誘致したり、新たな仕事を作ったりしてはどうか。仕事と住居が近いと子育てもやりやすい。
- ・人がいること、仲間があること、集まれる場所があるということが大切。健康でいたいという意見もあった。ストレスフリーで過ごしたい。24時間対応の病院が近くにあると安心。
- ・鎌倉の財産である緑を守ることが大切。乱開発は止めてほしい。
- ・人口は何人ぐらいが適切なのだろうという意見もあった。鎌倉の適正人口は現在の人口を上限としてその中で暮らしやすいまちづくりを考えていってはどうかな。

【Fチームの発表概要】

- ・市役所本庁舎移転がまずあって、そのあと公有地の利活用をしていくという議論を進めてもらえばわかりやすかった。
- ・住み続けたいまち鎌倉ということがなによりも大切ではないか。既成住宅地での空き家活用で何かできないか。
- ・住民同士がつながるとか、多様な住民を受け入れるということもあっても良い。
- ・働くまちでなくても良くて、週末ほっとするために鎌倉で過ごすということもあるのではないかな。

【講評(増井氏)】

- ・まちづくりの主役は市民の皆さんである。どこのまちでもそうだが、市民の意見を聞く手法としては、インターネットを活用したり、ワークショップとか説明会とか実施しているが、まだまだ不十分ということもある。
- ・これからの進め方についても、アンケート等にご意見をいただきたい。

④対話（グループワーク）の記録

【Aグループ】

鎌倉の未来像

- 経済的に成り立つ街
- 研究、学園、観光都市
 - ・産業＝観光レベルの高い
 - ・大学の観光学部（野村跡地）、若者、税込
- 住民自治のまち
- 鎌倉らしさを大切にす
 - ・行政のトップダウン
 - ・市民が目で見確認
- 鎌倉に資産を残せるか、他所に移すか、そこに問題が！
 - ・墓、寺、住まいを考えたい（個人を大切に）
- 鎌倉にはマンションは必要ない

魅力を高める

- ・旧鎌と後から市域に入ったところはギャップがあり過ぎる（内輪山と外輪山）
- オールドタウンとニュータウンの住み分けと連立で活性化を図る
 - ・コミュニティをつくる
 - ・焼却場のこと（山崎）
 - ・メリットが必要
 - ・内輪山は世界の鎌倉
- 空き家のないまちづくり
 - ・ごみ（ごみ袋が高い）、住民が高齢化、分別
 - ・住民サービスが不十分、箱物優先で良いのか？身近な課題を優先する
- 新旧をシャトルバスでつなぐ
 - ・市役所をどうするのか。いきなり話が出てきた。複雑にしている。
 - ・もっとわかりやすく市が説明すればよい
 - ・公有地は設ける事、活用すること
 - ・深沢地区のJR工場跡地を譲り受ける
 - ・民の土地がある
 - ・官が民に頭を下げる、協力を依頼する
 - ・鎌倉市の職員は鎌倉市民？
 - ・まちのデザイン：景観を大切にすまちづくりが大切、よいものでありたい、景観は思想、文化、人がつくったもの（人中心）
 - ・分数だとお金もかかる、だけど公平。技術が変化・進歩している、活用しよう
 - ・アイデアとして、ごみ焼却場は地域分散型に。リスク負担を公平に。運営費、人件費の削減、エネルギー創出、道路

【Bグループ】

鎌倉の未来像

- 交通渋滞のない街。
 - ・旧市街は、車は走っていないでよい。
 - ・観光は大事だが、車の通行は別。
- インフラは整っていて欲しい。
 - ・ガス、水道が老朽化。
 - ・静かなまち、落ち着いたまち、上品なまち。
 - ・自然：豊かな自然を維持。
 - ・古都鎌倉を後世に残すため、文化財的価値の破壊を食い止めるべき。食い止めていかないと鎌倉の未来はないと思う。
- 観光客からまちに経緯を払ってもらうこと。
 - ・ふるさとWAON、JR開札。
- 教育：大学の誘致による学民連携。
 - ・北千住は大学を誘致。住みやすい。
- 教育：子供を産みやすい鎌倉市。
 - ・女性、子供にとっての子育て。
 - ・アフタースクール。知識を豊富に持つ人がたくさんいる。
- ビジネス：温故知新、ベンチャー育成。
 - ・企業誘致は、深沢や外でやればよい。
 - ・「海がある東京」になってしまう。
- 個人の小さな商いが町を楽しくしているので、それが持続できる町
 - ・授乳する場所、個室。
 - ・ちょっと腰掛けるベンチが欲しい。
 - ・高齢者向けに一服できます！
 - ・夜の観光、朝の観光、昼の観光の分散。

【Cグループ】

鎌倉の未来像

- 古都・自然を大切にする
 - ・旧き良き鎌倉を年大切にする
 - ・いつまでも変わらないまち、開発をしない、自然を守る
- 高齢者が心豊かに暮らせるまち
 - ・巡回診療や生活サポート
 - ・介護支援センターの充実
- 子育てしやすいまち、子供にとって安全なまち
 - ・目黒区と鎌倉市では、子育て環境が雲泥の差がある（施設の充実度、備品などの充実度）。このままだと子育て世代は鎌倉から逃げてしまう
 - ・人口減少を止めること、子供が増える、子供を育てやすいまち
 - ・子供に危険のないまち、道路の整備
- 新しいコト（古都）が進められる場をつくる
- 世界イベントを活用した活性化
 - ・東京オリンピックの自転車競技の誘致

今後の市民対話等の
進め方

【現状】

- ・対話の場が少ない
- ・現在のプランや進め方に大きな不満や不安がある
- ・施設整備よりも、現在の生活環境や水準の改善を優先的に実施すべき
- ・今回の対話のテーマがあまりにも抽象的。

【今後の進め方】

- ・情報の公開と対話の場づくり
- ・施設整備は段階的にじっくりと進めるべき
- ・プランに対して、公聴会の開催等、市から積極的な説明を
- ・何年後であっても市民生活第一を貫いてほしい
- ・市は不交付団体であり、他市から見ても豊かなはずなのに、例えば、学校施設はひどい。子どものための施設は話にならないほど。

【Dグループ】

鎌倉の未来像

- ・旧鎌倉以外のエリアも鎌倉だと胸を張って言えるゆたかな笑顔の街でありたい。
- ・子供がすこやかに育つ街。
- ・廃棄物が出ない街（ゼロウェイストタウン）。
- ・静かで住み良い街。
- ・伝統文化のある街。
- ・自然豊かな街。
- ・住宅確保要配慮者に対する住宅セーフティネット（支援者付き）を整備して欲しい（公的不動産の利活用として）。
- 湘南の海のコーストライン。
 - ・富士山を含む観光コースと理念と仕掛けを作り、継続する「まち」にする。
 - ・気持ちが熱い人が多い、意見を集める。

子供が健やかに育つまち

- ・市の実行力がない、仕組みが必要。理念＋仕組み→継続。
- ・安全・安心したまち。
- ・話合の場や職場体験。
- ・時代が変わってきた！工場でも周辺の人々に奉仕。
- ・リアルな農業、キッズニア漁業。
- ・科学博物館がない！
- ・1～6次までの産業が必要。
- ・未来を見つめて！

【Eグループ】
鎌倉の未来像

- ミニショッピングモール。
 - ・空き家対策の1つとして。
 - ・インターネットを使えない人のためにも。
 - ・これ以上乱開発を許さず、落ち着いた緑豊かなまち。
 - ・子ども First !
 - ・新しい物を受け入れてほしい。
- 安心して住み続ける街。
 - ・自然の豊かさを維持しつつ現代社会の恵みも受け入れられる街
 - ・渋滞の解消、強い市庁舎、子育てしやすい街、市民が集える公園・場所を増やす。
 - ・かっこいい街。
 - ・多様性を認め合う街。
- 働くまち鎌倉。
 - ・観光業以外の業種もある多様な働く街。
 - ・テレワークなど鎌倉にいても出来る仕事を誘致して欲しい。
 - ・仕事と住居が近いと子育てもしやすい。
 - ・起業支援。
- 健康
 - ・良い病院（24時間対応）。
- 楽しい。
 - ・友達が居る、場所がある。
- ストレスフリー
 - ・雑音がしない、騒音がしない。
- 食
 - ・食べ物がおいしい、安全、買い物しやすい。
- 自然
 - ・緑、海、動植物、虫、人との共存、サイクル。
 - ・災害対策。
 - ・民間導入には慎重に。
 - ・市民の力を活かす。
 - ・ゾーンを決めて残すものと新しくするものを区別する。
 - ・鎌倉において人口はどれくらいがいいのか？環境保全として考えていきたい。

【Fグループ】
鎌倉の未来像

- ・多様な住民を受け入れる場所。
- ・地域の中でつながり。
- ・自然環境への意識、自然との共生。
- ・成熟した住宅地が維持される。
- ・鎌倉で育った子供たち（若い世代）が市外に出でいかずに住み続けられるまち（職場は市外でもOK）。
- ・観光公害の低減。
- ・公共施設を核としたまちづくりの実現。
- ・文化を大切にす鎌倉であって欲しい。
- ・マイカーが無くても暮らせる公共交通優先のまちづくり。
- ・鎌倉の人は運転中、遅い車にも待つ、ゆずる。新しく住む人は追いこそうとするが、やがて待つようになる。そんな鎌倉でずっとありたい（材木座に60年住む方から伺った話）。
- ・まず住宅。
- ・手仕事に魅力。今だからこそ、第一次産業。
- ・週末、鎌倉で過ごす時間がほっとする。

(3)アンケートの結果(第1回:n=31、回答率約89%、第2回:n=29、回答率約94%)

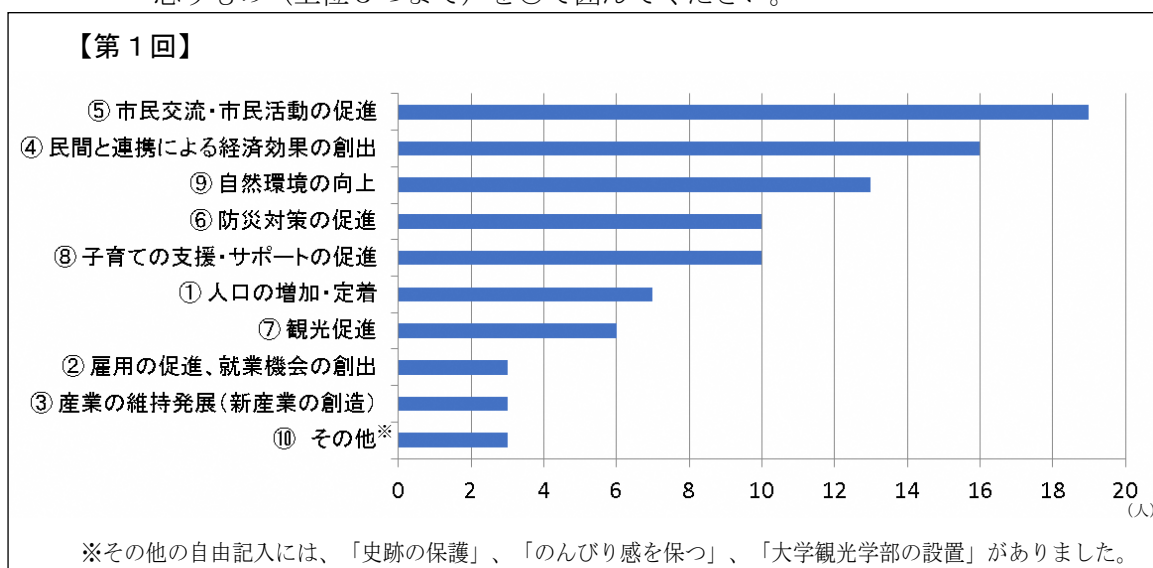
① 設問1の回答状況

設問：かまくらまちづくり市民対話は、いかがでしたか。当てはまる数字を○で囲んでください。

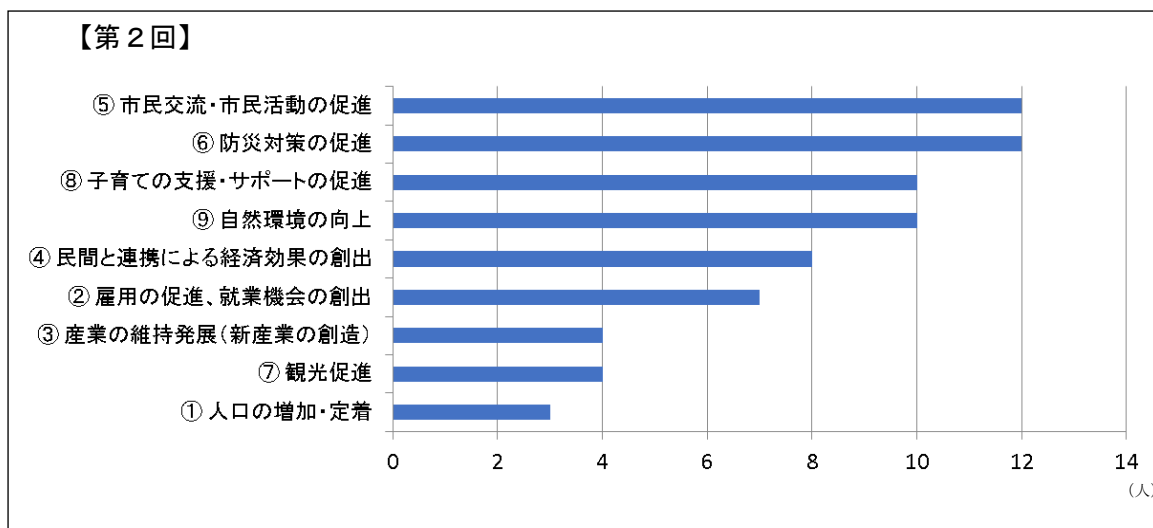
	面白かった・ ためになった		(中間値)			面白くなかった・ ためにならなかった		無回答
	5	4	3	2	1			
【第1回】	9人	9人	7人	5人	0人	1人		
	30%	30%	約23.3%	約16.7%	0%	—		
【第2回】	10人	4人	7人	3人	3人	2人		
	約38%	約14%	約26%	約11%	約11%	—		

② 設問2の回答状況

設問：鎌倉市が進めている公的不動産の利活用による効果として、特に期待したいと思うもの(上位3つまで)を○で囲んでください。



回答者31人に対して最も回答が多く、約6割の方が選んでいた選択肢は「⑤ 市民交流・市民活動の促進」でした。次いで約5割の方が「④ 民間と連携による経済効果の創出」を選んでいました。



回答者29人に対して最も回答が多く、約4割の方が選んでいた選択肢は「⑤市民交流・市民活動の促進」と「⑥防災対策の促進」でした。次いで約3割の方が「⑧子育ての支援・サポートの促進」と「⑨自然環境の向上」を選んでいました。

③ 設問3（自由記入）の主な回答

（原則、原文のまま全て掲載（一部誤記等を修正）。順不同。）

【第1回】

設問：鎌倉市のまちづくりの基本的な考え方（鎌倉・大船・深沢3つの拠点と、これらを結ぶゾーンを骨格とし、官民での公的不動産の利活用を推進していく）について、どう思われますか？ご意見やアイデアをお聞かせください。

分類	意見やアイデア
基本的な考え方などに関する回答	<ul style="list-style-type: none"> ・子供、大人、高齢者が安全で安心して暮らしていける様なまちづくりを大きなコンセプトとして欲しい。 ・3つの拠点案について、特に問題なく進めてほしい。 ・全くその通りです。旧鎌倉の外側（玉縄）に住んでいる者の考え方として旧鎌倉－新鎌倉（old town - new town）という構想の下に市役所移転は重要な施策であり、野村跡地へは大学観光学部を誘致して若い鎌倉を推進したい。また山崎焼却場もOK。その代り、排熱利用をメリットとして考える解が必要。老人ホーム、温水プール、温室で野菜栽培etc・・・ ・良いと思う。現在、旧鎌倉の一部に集中しているものを全て分散して行って欲しいと思います。 ・市のグランドデザインが見えない。成熟都市として古の鎌倉のOriginal 姿から考える。あまりトレンドィーな発想は不要ではないか？ ・賛成はできない。それぞれの土地で生きている人ひとがいる中で、ドラスティックな”行政が考える役割”を押し付けてから、その先を考える方針には反対する。

<p>公的不動産の利活用などに関する回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民交流の場が少ない。 ・市民が生き生き活動できる場を増やす。 ・既存所有不動産の有効活用は大変良いことだと思います。但し、市民の利便性をより高める必要があると思います。 ・深沢を進めるべき。 ・財政困難の中、新たな施設の建設に少し疑問を持った。新しい生産の場、交流の場になるのであれば、次世代、次々世代にもつないでいかれるような場所、機会にならなければいけないと思う。今後の具体的な案、民間の関わり方に期待している。 ・鎌倉は高齢化が県内でも1、2を争うほど進んでいる市であることを認識し、wellness（健康）、高齢者、子育てでの交流の場をいかに作るか、近隣の都市（例 藤沢市、逗子市、横浜市南区）などの取組みの例（鎌倉市よりは、一寸進んでいるのでは）を参考にして、具体的に取組んで欲しい。私は鎌倉は取組が一寸遅れているように思っている。 ・公的不動産が塩漬けにならないようなアクションプランに期待しております。もっと若い世代や大学とのアイデアソンなどを実施されることが良いかと思いました。 ・高齢者も子供も孤独な人達がたくさんいます。そんな人たちが一人でも多く関われるコミュニティを公的不動産の利活用に活かしてほしいと思います。震災銭湯を各地域に作って欲しい。世代を越えてつどえるコミュニティ作りをお願いします。 ・テレワーク化は世の中的に確実に進みますので、大企業を誘致するだけでなく、「コワーキングタウン」としての鎌倉は魅力的だし、可能性があると思います。町の雰囲気は変えずに、プラットホームを作る町づくりってできないですかね。都市への通勤時間の2～3時間を、鎌倉で使いたい人は多数いると思います。
<p>官民の連携方法などに関する回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が大家、行政が管理人であると考える。 ・ハコモノは行政が作り、運用や店舗の誘致等は民間に任せてはどうだろうか。 ・特に民活について、本腰を入れて取り組んで欲しい。
<p>交通などに関する回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧鎌倉⇄深沢の（公共）交通整備。 ・鎌倉⇄深沢（大船⇄深沢はモノレールとバスのみ？）の交通をかなりちゃんと考えないと。 ・深沢への足の利便性の不安があり。 ・鎌倉の最大の問題は交通であると考えます。大きな建物を作る場合、どうしても人の流れが大きく変わり、今の交通インフラでは対応しきれないのではないだろうか。限られたインフラを最大限に活かして、必要な部分は改善するべきではないだろうか。 ・深沢と鎌倉を交通的にどう結ぶのか。観光客との関係（動線、経済活動etc）をどう整理されているのかなという疑問があります。 ・深沢に移転した場合、交通の便（モノレール、バスしかない）。
<p>今後の進め方などに関する回答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先を考え、未来志向で。 ・深沢地区の行政機能（何を移すか）と民間共創（どのような形？）の計画を知りたい。 ・（文化的な要素、頭脳）等を、地元の個人店の努力を活かしながら、

	<p>市民主体での町に、観光客の人への意識を持ちながら、歴史的遺産を活かす。環境が良いのだから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これに関しては市民全体のパブコメを求め全体の意見を聞いた方が良い。 ・将来の鎌倉の姿がどうなるのが一番理想的なのか、もっと考えてみたい。理念のようなものがまだはっきりしていません。 ・もっと市民どうしが話し合い、何を考えているのか知りたかった。 ・絵に描いた餅にならぬような、しっかりとしたビジョン、話し合いが必要と感じた。特に、旧市役所に関してフラットの面として、その時必要な区分がフレキシブルに区切って活用できることが大事だと思う（細かく部屋を区切って立派なものにしない→費用をかけない）。 ・高齢者からクラウドファンディングした費用を集め高齢者の施設を作る等。 ・今回のお話を聞き、基本的な考えは良いと思いましたが、市民の方への理解を深める機会をもっと増やしてほしいとおもいました。動画やHP等でわかりやすい案の解説の発信をお願い致します。 ・考えさせられる課題…いい加減な意見を述べるのが出来ませんのでまた次回機会があれば、今回の対話も良かったです。 ・先代が残してくれたこの素晴らしい環境を市民の手で次世代に残していく活動をしていければと思います。 ・里山保全では、樹木の循環を考えないといけないので間伐材を利活用できる仕組み作りがしたい。鎌倉ブランドを活かして間伐材を加工して販売できると良い！武家の古都にふさわしい甲冑姿を感じられる街にしてみたい。馬で街をかつ歩する！ ・住民がスピーカーであるべき。 ・大きな流れは良いと思います。「見えないまちづくり」も色々議論したいものです。 ・意見を言うには、まだ情報不十分である。 ・この会の目的が判らない！全体プロセス/意見の吸い上げなどについて、冒頭に市の説明がなければ、意味がない！ ・主旨が良くわからない。歴史まちづくりとのかかわりはどうか？
--	--

【第2回】

設問：鎌倉市のまちづくりや公的不動産の利活用について、ご意見やアイデアをお聞かせください。

分類	意見やアイデア
公的不動産の利活用などに関する回答	<ul style="list-style-type: none"> ・公的不動産をオフィスにして「働くまち鎌倉」に向けて仕事を都内、横浜、海外から集め、働く人は鎌倉市民が行う事で働く街になるようにすることが重要かと思えます。 ・働く場としての利用 ・岩手県のオガールを見て途中のプロセスはわからないですが、現状はうまく人が集まる場所になっているなあと思いました。成功しているところの一つは、バレーボール競技場という他にない施設をつくっているところと伺いました。例えば鎌倉も当地独自の集積拠点か

	<p>つくれたらよいのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扇湖山荘はじめ旧邸宅ネットワークの利活用に関する具体性が見えなかった（民間企業が本当に入っていけるルートがあるのかギモン・・・結局特定業者なのでは？）市役所移転はしても良いと思うが、旧跡地にもサテライトを設置して利便性（高齢者・子育て中の女性）は保って欲しい。サテライトを中心とした楽しい交流の場になるとなお良いです。 ・大学や高専のサテライト教室などの誘致による学民連携の場を創出して下さい。 ・公的不動産の利活用については、施設の現状（利用率、それぞれの施設に投入されている年間予算額（※寄付物件の場合は、固定資産税などの逸失分も含む）、利用時間など）の統計データを施設ごとに開陳し、それにもとづき具体的に利活用を論じるべきと思う。そうでないとパブコメすら書けない。データ不足。 ・野村総研あとに大学観光学部を誘致する。例えば東洋大など（その他約10校が対象となる）この場所は交通の便が悪いため一度に2～300人位の人を集めなくては活用できない。学生という若者の参加で観光のレベルUP。 ・鎌倉市役所・・・議論不足→現在地移転の理由が薄い。 ・深沢・・・自転車競技場含めた総合スポーツセンター。 ・梶原4丁目・・・鎌倉アカデミア大学（市民もつどえる男女共学新大学）。 ・扇湖山荘・・・鎌倉山は交通不便問題含め再構築。 ・資生堂・・・市内で活用公募が最適か。
官民の連携方法などに関する回答	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大する市民要望に対して減少する税収が予想される今日、いかに民間の力を借りて市政を充実させるかが鍵になると思う。公平性、公正性を維持しつつ、民間にも行政の事業をやってもらうかが重要だと思う。声の大きな人に引きずられないようにして欲しい。
まちの魅力創出に関する回答	<ul style="list-style-type: none"> ・公的不動産もですが、駅前広場やまちなかに一休み出来る場所を創出してくださると町の魅力が上がると思います。 ・古都鎌倉としての未来を踏まえ有識者の意見も取り入れ、史学的価値等のある未来づくりを推進して頂きたいと存じます。開発の進む方向性によっては全く価値のない都市化になってしまえば潜在能力を引き出すことは出来ません。鎌倉で最重要にしなければいけない事は古都鎌倉の破壊を守るということです。 ・働きやすく！子どもFirst! ・マンション提供公園が重なっている所ではその一部を喫茶店などに開放し、近隣のコミュニケーションの場をつくるとともに添付例（植木）では観光コースのトイレ提供の役もはたす。
進め方や周知等に関する回答	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉にはブランド価値がある。だから民間に参入してまちづくりを進めるのが有効だということ。「パブリックマインド」をもった企業というのはありますよね、ということをお伝えしたい講演の設定だったのかもしれませんが、ブレインストーミング的なものだったので、参加者からハレーションが出たのではないですか。市民対話のテーマは中間取りまとめの方針について単刀直入に議論すべきだと思います。「市民の想い」を推進委員会に伝えるという仕掛けそ

	<p>のものが上から目線。前回の市民対話は「対話」で何を話すのか参加者がわからないまま終わってしまい、また時間も短すぎて推進委員会に申し送りできる意見が出たとは思えない。前回も今回も講演の内容自体は面白かったが、その後続く市民対話とのつながりが見えない組み立てが問題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の思いも市民一人ひとりのわかるよい機会となりました。 ・公聴会を開いて下さい。 ・皆様が考えている事がとても幅広く課題が多くある事がわかりました。 ・市民に対しては周知が不足しているのでは？市庁舎移転についての情報がテーブル各自ばらばらであったような気がします。 ・上から目線はやめなさい。共有はダメ。 ・昨年の市民対話は市役所本庁舎の課題が明確でしたが、「公的不動産活用」というテーマがやや唐突だったかもしれません。今日はテーブルで市の職員とも対話でき、より認識深め、市民同士のコミュニケーションも素晴らしい。(仕事の関係で一時的に東京に住民票を移しましたが必ず戻って住民税払います)とりあえずは「ふるさと納税」! ・本日の運営に問題がありますね。講演は理解できなくもないですが、長すぎの話でした。反発があったことは重く受け止めるべきです。 ・公共施設の再編計画(市役所移転)が基本方針とまでなっている中で、大きな「鎌倉の未来について」話し合わせるのは本末転倒です。市は外部に丸投げですか? ・これはダメ! ・若い方の参加が少ないのがざんねんである。 ・会議時間の25%以上講演に時間を割いた理由が全く理解出来ない。理念→仕(掛)組み作り→継続した「まち」づくり。公的不動産の利活用は市の提案を深く理解し、市民も努力することにつきる。御苦労様!! ・市民に委ね、市民が創るまちづくり。それをサポートする市役所のようにもっと巻き込んでいただきたいと思います。ありがとうございました。 ・鎌倉に総合的ビジョンがない。しっかりした考えでプラン作成。 ・「鎌倉市域」でのまちづくりを検討する前提として、地勢、歴史的経緯、残存資(遺)産、などに理解が不十分すぎる。 ・過去100年の30年単位で、鎌倉への参入/流出の実態をみると現状の問題点、今後の展望/発展等が自ら解明できる。 ・2回目の「市民対話」と言う事ですが、時間が短すぎる。まちづくりとして広い間口で開くのでは「3月に確定」を狙っている再編計画になかなか結び付けられないとテーブルの参加者皆感じていた。具体の公的不動産(面積含め)が明らかにされてはじめて、ソコにはナニがふさわしいという提案が可能になると考えます。アイデア、提言はあるのですが書ききれません。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと市民が本当に必要としている問題(Ex. 空き家増加、ゴミ(観光ゴミ、焼却場、京都市の2倍のゴミ袋料金)、休日交通渋滞、車、江ノ電)に真剣に優先して取り組んで欲しい。 ・防災対策は安全安心とは程遠い街だと思っています。それぞれの

	街の中にある活断層の位置と自覚した上で避難場所を確保する ・だいたい、各検討会に参加している人は全てに参加している人がいる。意見がかたよる事になるので見直しを求めたい。 ・ハコものの活用より、心の問題を先にすべきだ。
--	--

③ アンケート回答者の属性（設問 4・5）

【性別】

	男性	女性	未記入
【第 1 回】	21人	10人	0人
	約67.7%	約32.3%	—
【第 2 回】	17人	10人	2人
	約58.6%	約34.5%	約6.9%

【年齢】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	未記入
【第 1 回】	0人	1人	2人	5人	7人	16人	0人
	0%	約3.2%	約6.5%	約16.1%	約22.6%	約51.6%	—
【第 2 回】	0人	1人	0人	6人	10人	8人	4人
	0%	約3.4%	約0%	約20.7%	約34.5%	約27.6%	約13.8%

※第1回、第2回ともに出席された方は、12名であり約41%となっている。

4 まとめ

(1) 市民対話や周知等の進め方に関する意見

市民対話の開催にあたり、公的不動産の利活用検討の取組について情報が不足しているなどの意見がありました。引き続き、広報かまくら及び本市ホームページ等への掲載、自治会町内会への出前講座の実施など、可能な限りの周知活動の必要性が感じられました。

また、公的不動産の利活用推進方針を平成30年3月までに決定するのは早すぎるなどの意見もありましたが、この取組は実行段階に至るまでに時間を要するなど、方針決定にかかる検討は慎重かつスピード感を持って取り組むことが重要であるため、スピード感を持ちながらも丁寧な市民周知を並行して実施し、平成30年3月の方針決定を目指していきます。

(2) 中間取りまとめにおける利活用の基本方針等に賛同する意見

公的不動産の利活用、3つの拠点（鎌倉駅周辺拠点・大船駅周辺拠点・深沢地域国鉄跡地周辺拠点）の視点とコンセプト、官民連携、「働くまち鎌倉」や「職住近接」と

いう考え方などに賛同する意見があり、公的不動産の利活用の取組やその有効性について一定の理解は得ることができたと捉えています。

(3) 利活用による影響を懸念する意見や利活用の具体的な意見

本庁舎移転後の深沢地域整備事業用地（行政施設用地）周辺の交通負荷、本庁舎（現在地）から深沢地域整備事業用地（行政施設用地）へのアクセスなど、本庁舎移転に伴う利便性や交通渋滞を懸念する意見がありました。本庁舎移転に伴う利便性等に関する検討については、これまでの検討を更に進めるとともに、引き続き出前講座等に取り組み、市民理解を得ていきたいと考えています。

また、利活用の具体的なアイデアとしては、梶原四丁目用地（野村総合研究所跡地）について、観光学の実践の場としての大学誘致や民間との連携による経済効果の創出などの意見がありました。これまでの推進委員会では、公的不動産の利活用による働くまち鎌倉、住みたい・住み続けたいまち鎌倉の実現について議論しており、昨今の大学の都心回帰などの動向から、雇用の創出や学生の定住について疑問があります。なお、本庁舎（現在地）や移転先などの利活用のアイデアの中には、市民交流として知識の共有や市民が活動できる場、防災対策の促進の場としてほしいとの意見や、本庁舎（現在地）の利活用については市民サービスや市民が利用できる場等になって欲しいという意見もあり、これらの意見は次年度以降に取り組む予定の本庁舎整備等に関する基本構想策定時に繋がるものと考えます。

(4) まとめ

全体を通して対話の結果を見ると、市民の方々のまちに対する関心の高さを汲み取ることができました。また、公的不動産の利活用に対し事前に考えを持った市民の方々は、前向きな意見や今後の利活用方法などについて意見を出されている面がありました。このことを捉えると、周知不足を打開するため引き続き出前講座等に取り組むとともに、機会を捉えて説明を行っていく必要性が感じられました。

また、まちづくりに対し、市民がプライドを持って取り組むことの重要性が意見として出されており、検討している公的不動産の利活用推進方針に生かしていこうと考えています。